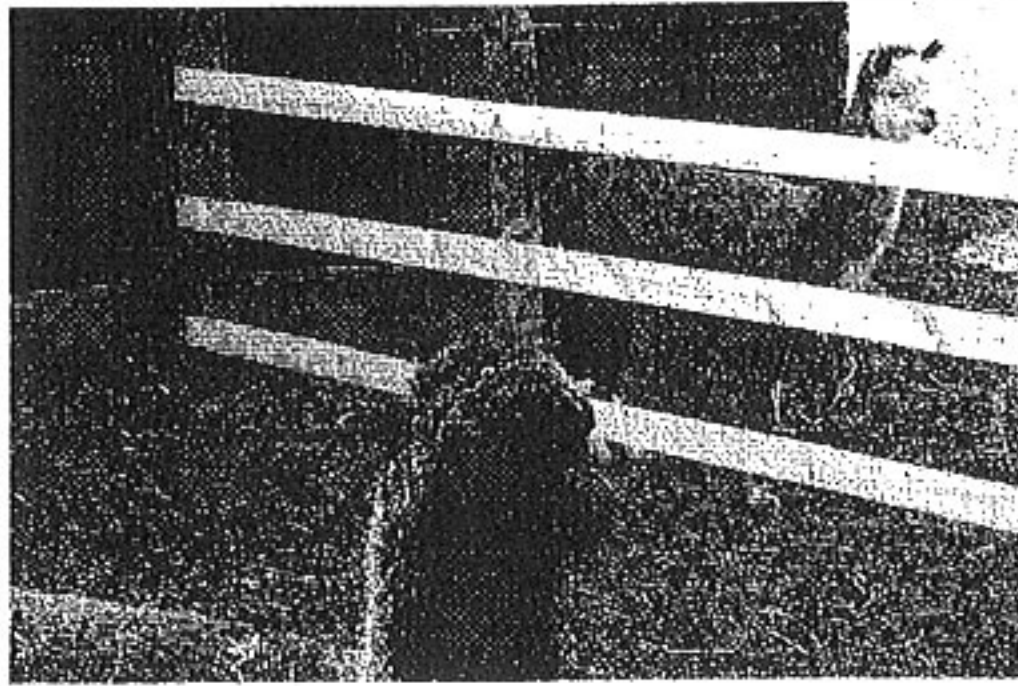
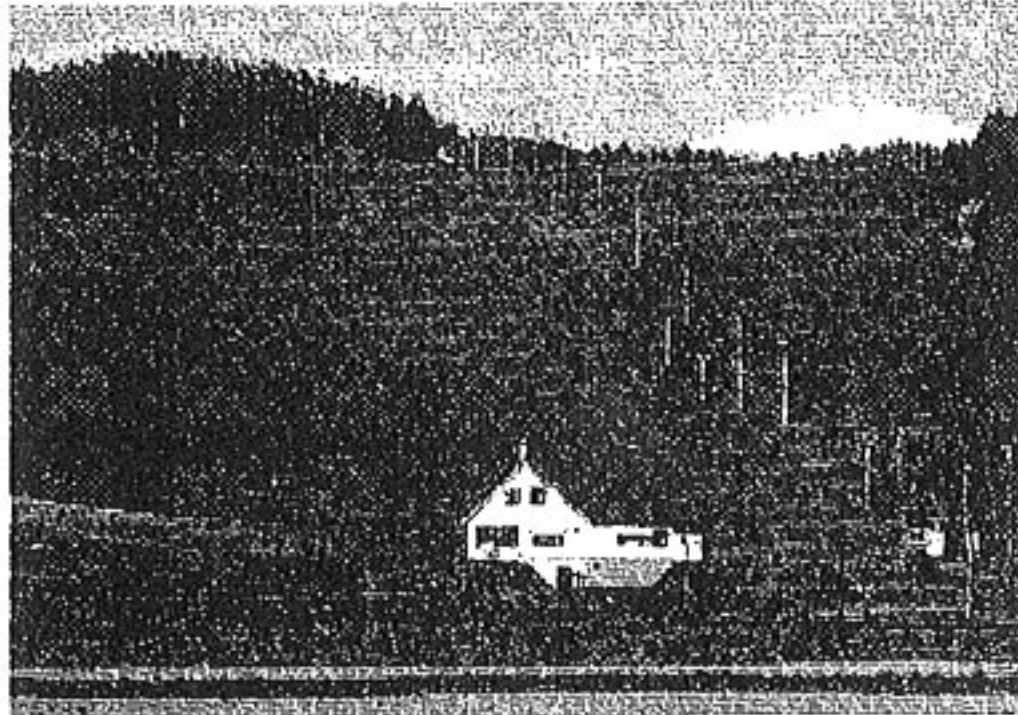




発行所
株式会社 道北日報社
士別市大通東11丁目
電話(内) 23-3108 番
FAX 23-3109 番

剣淵町

スキー場跡地、売却決まる



売却が決まったスキー場(上)と試験飼育しているアルパカ(下)

剣淵町は07年3月に廃止した剣淵町ひばからすスキー場を、アルパカによる観光牧場を計画している東川町の(有)アグリテック(井下佳和代表)に売却することを決めた。「牧歌的な雰囲気がある里づくりにもふさわしい」として、今後の交流人口の増加に期待を寄せている。今後は町内外の有志で観光牧場開設に向けた準備組織を立ち上げたいとしている。

剣淵町東町のひばからすスキー場は80年のオースンから長年町民に親しまれていたが、スキー人口の減少などから利用者が年々減少し、維持管理費の負担増などから昨年3月で廃止した。剣淵町はスキー場廃止に伴い、跡地の町有地約13・7畝、リフトやロッジの活用について町民からアイデアを募集していた。

しかし町が管理運営して事業を行う場合、財政状況や運営経費など、将来の財政負担となることから予想されることから売却を決め、昨年12月に公募を行った。

東川町の(有)アグリテックは、都市と農村をつなぐグリーンツーリズムを推進している企画会社で、剣淵町でも昨年からはじまった修学旅行生の農業体験のサポートを行

うなどもしている。またアグリテックは昨年からは町内屯田町の高橋誠さんと協力して、道内初となるアルパカの試験飼育を行っている。

アルパカはアンデス山脈などが原産のラクダ科の家畜動物の一種。アグリテックが提案したアルパカ牧場構想は、おとなしく牧歌的なイメージが絵本の里にも似合うことや、高級素材でもあるアルパカの毛を活用した地域の活性化、剣淵町の玄関口として多くの観光客などを見込めるなどとしている。

町も絵本の里づくりのイメージに合うことや、将来の交流人口増加に期待を寄せ、売却を決めた。町はアグリテックと今月中にも売買契約を結びたいとしている。

牧場の開設時期や規模などは未定となっているが、今後町内外の有志らで牧場開設に向けた準備組織を立ち上げたいとしている。

国内では唯一、栃木県的那須アルパカ牧場が400頭あまりを飼育しており、牧場開設の際は数十頭のアルパカを借り受ける案もある。

昨年剣淵町にやってきた2頭のアルパカも元氣

アルパカ観光牧場を計画 (有)アグリテック 「絵本の里のイメージに合致」と (東川町) 将来の交流人口増に期待

に育っており、6月には初めての繁殖、7月には毛刈りを行いたいとしている。今後、アルパカがこの地域の人気者となっていくことに期待がもてそう。